

特集

患者急変時に備える AED

FRONT ESSAY FRONT ESSAY

心停止の蘇生において心拍再開率は年々向上してきているが、蘇生後の予後を見ると、社会復帰率は2から5%程度であり、20年前と比べても成績の向上はほとんど認められていない。せっかく蘇生できても、植物状態あるいは重度の後遺症により入院生活を余儀なくされているケースが多い。心肺蘇生後の予後にもっとも影響を与える因子は、蘇生開始までの時間である。心停止発生から4～5分以内に循環動態を改善しなければ脳に不可逆的变化が生じ、もとの機能を回復することができなくなる。心停止現場での早期の適切な処置が予後を決定的に決定するといっても過言ではない。

心臓突然死の原因の多くは心室細動である。心室細動とは規則的な心筋の収縮が損なわれ、心筋が不規則に痙攣するような状態となるため、心臓が全身へ血液を供給できなくなる病態である。その心室細動に対する最も効果的な治療法が電氣的除細動である。

このような心停止例に対して職員誰でもが迅速に対応できるよう、はあとふるグループでも自動体外式除細動器(AED)を各部署に設置した。AEDは、電源を入れると音声ガイダンスが始まり、その指示通りに操作すればよく、初めての人でも使用しやすくなっている。電気ショックが必要かどうかについても器械が判断し指示してくれるので医師以外の職員でも安心して除細動ができるようになっている。

先日、羽曳野地区と八尾地区で医療安全研修の一環としてAEDの研修会を開催した。幸いにも多数の参加者が

FRONT ESSAY 自動体外式除細動器(AED)の導入について

あり、人形モデルを用いてAEDによる除細動を実際に経験していただいた。

「なあんだ、簡単じゃないか」と実感していただけたはずである。

米国では、すでに人の多く集まる公共施設や民間施設にまでAEDが広く普及しており、心停止現場に居合わせた一般市民がAEDを使用し救命の成果を挙げている。わが国でも、2004年7月に、一般市民もAEDを使用できるようになったことから、公共施設や会社、病院などさまざまな施設にAEDが設置されるようになってきた。愛知万博の時にもAEDの使用により2名の救命例があったということである。

医療従事者は、心停止場面に直面した場合、速やかにAEDを使用できなければならない。医師が駆けつけるまでに臆することなくAEDを使用し、救命の実をあげていただきたいものである。

島田病院の副院長、SA委員長:河崎 収

AEDとは
人工呼吸や心臓マッサージ等は、救命救急の手段としてよく知られているところですが、このような心肺蘇生法では、止まってしまった心臓を正常に戻すことはできません。血液の流れを再開させ、酸素を全身へ運ぶためには、一刻も早く除細動器と呼ばれる機械で心臓に電気ショックを与える必要があります。

この除細動器の使用についてはこれまで医師・看護師・救急救命士などにしか許可されていませんでした。しかし、2004年7月より、AED(自動体外式除細動器)の使用が一般市民にも認められるようになりました。



医療安全講習会を開催 - AEDを実践しました! -
法人事務局 感染・安全管理担当
森下 幸子

今年度は、全職員を対象に医療安全講習会を年に3回予定しております。その第1回を5月18日に開催いたしました。会場が狭かったにも関わらずたくさんの出席者でいっぱいになりありがとうございました。

その中でも、ひときわ熱心に取り組んだのは、写真で示しております『AED』のトレーニングです。

『AED』は、愛知万博で有名になった自動体外式除細動器の事で、いつでもどこでも心臓の停止から命を救うために、心臓に電気ショックを与える器械です。

病院だけでなく悠々亭やゆうゆうハウスへも設置する事になりました。

病院では、医師が判断し動かすわけですが、医師や看護師以外の職員も病院で勤務する以上は緊急対応ができなければならないという事で、この講習会を行いました。メーカーの方が、モデルの人形を2体持ってきていただき、実際に器械を動かすトレーニングでしたので、参加した職員からは実践的でわかりやすかったという意見がありまし

た。

今回、勤務で出席できなかった方には、秋の医療安全講習会でやっていただこうと思っております。医療安全の講習会は、グループとして大変重要な研修会であると思っておりますので、受講者の名札には「青いシール」を貼ることにしました。この「青いシール」が名札に2個はられる事を目標にどんどん出席をお願いします。

AEDの設置完了しました。

島田病院 総務課課長
東真司

羽曳野地区は以下の場所に設置しています。

- ・ 島田病院2階病棟
- ・ 島田病院外来
- ・ 老健悠々亭入所
- ・ 老健悠々亭通所
- ・ ゆうゆうハウス
- ・ ヴィグラス 計6台



(フクダ電子)

プランナー : 医療情報課 山中 毅

特集

FRONT ESSAY

プランナー

発行人 SA委員会 編集担当 森下 幸子

発行所 医療法人永広会島田病院内